

胸水フローサイトメトリ検査が有用であった濾胞性リンパ腫の一例

◎勝亦 義人¹⁾、下平 麻子¹⁾、藤井 歩¹⁾、永井 秀一¹⁾、高橋 のぞみ¹⁾、難波 真砂美¹⁾、津浦 幸夫¹⁾、中村 典彦²⁾
 国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院 中央検査科¹⁾、国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院 血液内科²⁾

【はじめに】フローサイトメトリ検査（以下FCM検査）は、造血器腫瘍の診断に必須で、表面抗原を検索することで細胞の由来や分化、機能の鑑別が可能である。院内でFCM検査を実施した場合、結果を短時間で出すことが可能であり、病理診断や遺伝子検査などに先行して結果が出る為、診断の方向性を示す重要な検査である。今回、院内で実施した胸水FCM検査で濾胞性リンパ腫（以下FL）の早期診断及び治療の一助になった症例を経験したので報告する。

【症例】60代男性、2014年に慢性骨髄性白血病の診断となり、当院にて、タザメトニドで治療を行っていた。2019年、胸水貯留とそれに伴う呼吸困難が見られ、精査の為に緊急入院となった。

【検査所見】胸水生化学ではLD107U/L、ALB2.4g/dL、TP3.7g/dL、末梢血生化学ではLD134U/L、TP5.6g/dL、sIL-2R1680U/mL。胸水血算ではWBC 2.4×10^9 /L、RBC 0.08×10^{12} /L、目視でリンパ球94%、末梢血血算はWBC 2.9×10^9 /L、Hb12.1g/dL。形態学的検査では腫瘍細胞を同定ができなかった。CT検査では以前と比較すると腋窩や縦

隔、鼠径など多数のリンパ節腫大を認め、胸水FCM検査では、CD10+/CD19+/CD20+、軽鎖は $\kappa >> \lambda$ の発現の偏りがある細胞が見られた為、B細胞性リンパ腫を疑い入院3日目に緊急リンパ節生検を実施することとなった。

【経過】リンパ節生検検体でのFCM検査は、胸水FCM検査と同様の結果となった。入院4日目に、前日に先行して提出したリンパ節FCM検査の結果より、B細胞性リンパ腫であると判断された。患者の全身状態から速やかな処置が必要と考えられ、PSLの先行投与が開始された。病理組織学的には、不明瞭なリンパ濾胞状構造が見られ、濾胞内のCentroblastは1/HPF程度であった。免疫染色では、bcl2、bcl6、CD10、CD20が陽性でCD3が陰性でありCD21で濾胞構造の不規則性を認めた。これらの結果より最終的にFL Grade1と診断され、入院10日目にBR療法が開始された。

【まとめ】今回の症例では、胸水FCM検査の結果から迅速に次の検査へ移行でき、早期診断、早期治療に有用であった。連絡先：046-822-2710（内線2388）